

日月の事

文永五年

四七歳

摩利史天女

大日天

誓耶后

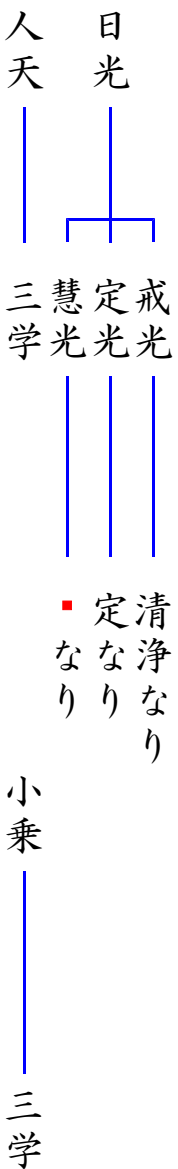
輜車に乗ず

九曜
七曜

大月天

二十八宿
鷲に乗ず
十二宮

金光明經に云はく「日の天子及び月天、是の經典を開き精氣充実す」と。
 最勝王經に云はく「日出でて光を放ち無垢炎清浄なり。此の經王の力に由りて流暉四天に遶る」と。仁王經に云はく「日月度を失ひ」等。大集經に云はく「日月、明を現ぜず。四方皆亢旱す。是くの如き不善友・悪王・悪比丘我が正法を毀壞す」と。仁王經に云はく「非法非律にして比丘を繫縛すること獄囚の法の如くす」と。法華經に云はく「色力及び智慧、此等皆減少す」と。華嚴經に云はく「段食・法食・喜食・禅悦食」と。大集經に云はく「三力は一切衆生力・法力・自身功德力なり」と。



十信・十住・十行・十廻向・十地・等・妙
 此の天は初地
 或は義は十廻向なり

初地は三惑断
 初住は三惑断

北辰

梵・帝釈・日・月・四天等

衆星

一切の四天下の衆生の眼目

肉眼
天眼
慧眼
法眼
仏眼

衣食
壽命



有に非ず地を離るゝが故に。空に非ず有を照らすが故に。辺に非ず中に処
 するが故に。而も空なり、空に処するが故に。而も有なり、有を養ふが故に。
 不來なり北に至るが故に。而も來なり南に來たるが故に。不一なり四州を照
 らすが故に。不異なり一日なるが故に。不斷なり常なるが故に。不常なり一
 処に住せざるが故に。方等と雖も義は円極なる故に。故に今之を引く」と。